

### ①若い力の活用について

社会環境の変化により、地域での連帯意識の希薄化が進み、住民の地域活動への参加が少なくなっており、特に若い世代の地域活動への参加が少ない状況にある。一方で、地域で活動したいと考えている学生もいる。自治会をはじめ地域団体に、若い世代の地域活動への参加が進むことで、活動の幅が広がる可能性がある。

#### 【前回の意見】

- 1 まちづくりを進めていくうえで、若い人たちの力が必要である。「自治会費を無料にするから、手伝ってほしい」という考え方は、若い人たちの地域活動への参加促進、協力体制の強化に結びつける具体策になるのではないか。
- 2 自治会に学生部を設置し、地域活動に関わらせてはどうか。
- 3 中学生は、体育祭や文化祭など自主的に自分たちで行っており、中学生を主体として小学生が応援する形であれば地域活動も可能である。そこを PTA や子どもを持つ親世代が仕掛けていくということが必要である。
- 4 いかに興味を持たせるか。自主的に取組まなければ、伸びていかない。自主性や継続性を高める工夫が必要だと思う。また、世代間で地域の問題や認識のズレがあるが、それをいかにお互い受け入れていくかということが必要だと思う。
- 5 「区役所のまちづくり活動を身近に感じるか」等の問いに対する答えの詳細理由について、大学生に調査させてはどうだろうか。
- 6 大学生の地域活動への参加についてだが、大学生の専門性を生かせる場があれば協力できると思う。



#### 【自治会活動への参加について】

- 学生
- PTA
- 子育て世代



【若い力をどう活用したいのか】

- ・自治会関係



【解決策】

## ②地域での子どもの育成について

子どもが加害者となり、また、犯罪に巻き込まれる事件が全国的に起こっており、家庭や学校、地域が連携して子どもを犯罪から守るための取組みを進めていくことが、今後ますます重要である。

国立青少年教育振興機構の調査によると、子どものころに自然に触れた、友達と体を使って遊んだ、地域の大人たちと接したなどの経験が多い者ほど、大人になってからの「意欲・関心」「規範意識」「職業意識」が高いという報告を行っている。

### 【前回の意見】

- 1 中高生になっても地域と関わりを持ち、自らボランティア活動等に参加するような仕掛けをしていったほうがよい。
- 2 私の地域では10年ぶりにどんどやが復活し、子ども達が準備や片付けなどとても活躍した。地域活動参加へのよいきっかけとなった。
- 3 自分が子どもの頃に参加したイベントは、用意されたものであった。子どもに役割を与えて達成感を持たせることができれば、成長に伴い役割に対する責任が大きくなっても、率先してやっていくことが出来るのではないか。習慣化を図ることも重要であると思う。



【地域でどのような活動をしているか】



【子どもたちを取り巻く現状】



【地域でどのような活動をしたいか】